実践報告

保育者養成校と実習園との連携に関する基礎的研究

A Basic Study of Cooperation between Nursery Teacher Training School and Training Kindergarten

曲田映世・中西利恵
中井清津子

キーワード　保育者養成、実習指導、実習不安、保育現場、連携

1. 背景と目的

「子ども・子育て支援新制度」では、すべての乳幼児のための質の高い教育及び保育、子育て支援、そしてそれを実質化していくための環境（人的・物的・社会的）の創造（整備）と実践が求められている。保育の“質”の鍵をにぎるのはもちろん保育者である。専門職としての自律的職能観を有する保育者の養成と育成のための、実質的な協働を生み出す対話の場づくりは重要な課題である。保育者養成校と保育現場との協働として、実習や新任者研修はその軸になると考える。特に、実習はもっとも連携による質の向上が期待できる場であり、実習指導にかかる教育方法の研究が数多くなされている。しかし、研究対象は保育者養成課程内での指導方法に関する内容がほとんどで[1)~9)]、依然として多くの課題が残っている。

そこで、本研究では、保育者の養成現場（保育者養成校）と育成現場（保育現場）による実質的な「対話」と「協働」の場づくりをめざし、連携方法について検討する。学び続ける・育ち続ける保育者の育成のため、保育者としてのプレ・アイデンティティ形成に向けた保育者養成課程に学ぶ学生としてのキャリア支援が円滑に進むよう、幼稚園教育実習を対象に実習園との実質的・具体的な連携方法について探ることを目的とする。

2. 方　　法

保育現場との効果的な連携方法を探るため、ここでは実習園の指導や対応が大きく影響すると考えられる「不安」に着目した。「不安」については、保育者養成校での実習指導に関連する研究テーマとしては取り上げられているものの、不安解消のため実習園との協働や連携方法の開発に着目した研究は見当たらない。

不安解消をめざした保育現場との連携方法を探るため、実習にかかる不安の実態について次の2つの方法で検討した。一つは、不安の内容について学生の自由記述から分析した。もう一つは、不安の変容について実習前後における不

安の大きさ（以下、不安度という）を、学生自らが 0～100％ で数値化した。それらの数値を比較検討した。

対象は平成 28（2016）年度幼稚園教育実習履修者の 4 回生 30 名である。実施は、実習の前（5 月 24 日）と実習の後（6 月 28 日）の 2 回、実習指導の時間に行った。倫理的な配慮としては、授業時に課題や記述シートの意義を説明し、成績評価等に不利益を生じるものではないことを説明した。また、効果を検討するために取り扱う際には、個人情報を取り扱わないものを用いた。さらに、個人情報と内容とを分け、個人が特定されないように内容を数値化・キーワード化して用いた。

質問は以下の通りである。質問紙は資料 1・2 に示す。

◆事前の調査項目

以下の欄に、どんな些細なことでもよいので、不安の中身を書き出してみましょう。

そして、その度合い（以下、不安度とよぶ）をパーセンテージ（0～100％）で表してみましょう。

◆事後の調査項目

以下の欄に、実習前にあった不安がどのような経緯で変容したのか、書き出してみましょう。

そして、その度合い（以下、不安度とよぶ）をパーセンテージ（0～100％）で表してみましょう。

3. 結果と考察

(1) 不安の実態と傾向

学生が記載した不安の総数は 189 件であった。不安の実態と傾向をみるため、研究者 3 名で内容の分析を行ったところ、次の 10 項目に分類できた。件数の多い順に「指導計画の作成と実施」「保育技術の展開」「幼児」「健康」「実習記録」「教師」「実習期間」「就職」「給食」「その他」となった。分類項目ごとの件数を図 1 に示す。

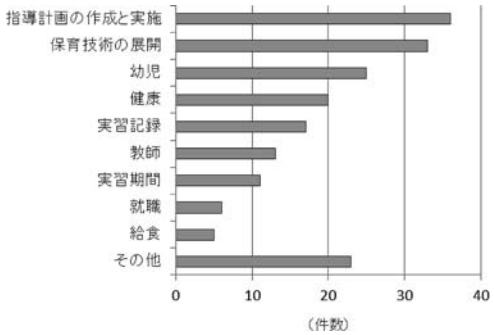

図 1　不安の実態と傾向

(2) 各項目の主な内容

項目ごとにさらに詳しく実態を検討するため、主な内容とその内容が各項目内で占める割合について分析、検討した。件数の多かった上位 3 項目については、具体的な内容も取り上げ検討した。なお、各項目で示す割合は、その項目内のみでの割合である。

①指導計画の作成と実施

部分実習や全日保育の実践に対する不安が多かった。これは 8 割にあたる 25 名が挙げていた。具体的な内容は次の通りである。

・設定保育を考え、準備や実施ができるのかが不安である。

・園児の数が多い為、設定保育が不安である。

・部分実習は子どもたちが楽しんでしてくれるだろうか。

②保育技術の展開

ピアノや手遊び、絵本に関するものであった。また、この時期特有のプール指導に対する不安もあった。この中ではピアノに関する不安が多く、7 割にあたる 21 名が挙げていた。具体的な内容は次の通りである。

・ピアノの弾き歌いがしっかりできるだろうか。

・ピアノを突然弾くことになるのではないか。

・手遊びのレパートリーが少ない。

③幼児

もっとも多かった内容はクラスの子どもの名前を覚えられるかという不安であった。具体的な内容は次のとおりである。

・子どもの顔と名前を覚えられるか。

・積極的な子どもへの言葉がけができるかどうか。

④健康

約 6 割が体調管理に関する不安であった。他には、寝坊や遅刻などもみられた。

⑤実習記録

「きちんと書けるのかどうか。」という不安が多かった。

⑥教師

教師とのコミュニケーションや質問のタイミングなどに対する不安がみられた。

⑦実習期間

今までの実習の中でもっとも長い実習期間であるため、やり遂げられるかという不安が多かった。

⑧就職

実習による就職活動の遅れや「保育者に向いているのかどうか。」という不安がみられた。

⑨給食

「給食が食べきれるか。」といった不安が多かった。

⑩その他

①～⑨に分類しにくい内容をまとめた。保護者対応やマナー等に関する不安であった。

(3) 不安度とその変容

10 項目の不安内容について、不安度とその変容を表 1 に示す。不安度を実習前後別で全体平均を算出すると 62% と 26% であった。実習を通して 36% 減少していた。

項目ごとにみると、「指導計画の作成と実践」については、実習前の不安度は 75% で 10 項目中もっとも高かったが、実習後に 36% の軽減がみられた。変容に至った経緯として「指導計画を先生と細かく計画したので、あとは上手くできるか不安だったが、切り替えて頑張った。」、「実際に設定保育をして、子どもの楽しむ姿を見ていると自分も楽しくなり、不安が和らいだ。」など、教師の指導や子どもの反応が変容へとつながる内容がみられた。

「幼児」については、実習後の不安度が 10% でもっとも低くなっていた。変容に至った経緯として、「子どもが実習生のところへ来てくれることが多く、自然に積極的に言葉がけができたと思う。」「運動会の練習では、先生の代わりに言葉がけすることが多く、自分に自信が持てた。」などの内容がみられた。子どもとかかわる時間が多いほど、軽減につながっている事例が多くみられた。この項目では不安度が増加した学生はいなかった。

「実習期間」については、不安度の変容がもっとも大きく 50% の軽減がみられた。変容に至った経緯として、「先生がとても優しく、子どもも可愛く、乗り越えられた。」など、教師や子どもとのかかわりや印象が変容につながる内容がみられた。

「就職」については、実習後の不安度が 47% ともっとも高く、そのため不安度の変容が低かった。変容に至った経緯として、「就活も不安だったが、より一層、施設か幼稚園か悩むようになった。」という内容がみられた。これは今回の幼稚園教育実習がすでに経験してきた保育所実習や施設実習とは求められる内容や状況が異なることから、自分の適性について改めて考える必要性が生じていると推測される。

一方、不安度の全体傾向だけでなく個別でみると、「指導計画の作成と実施」「保育技術の展

開」「教師」の 3 つの項目で、実習後に増加しているケースがみとめられた。

表 1　不安度とその変容

	不安の項目	不安度の平均値		不安度の変容
		前	後	
①	指導計画の作成と実施	75%	39%	36%
②	保育技術の展開	64%	25%	39%
③	幼児	45%	10%	35%
④	健康	54%	23%	31%
⑤	実習記録	66%	27%	39%
⑥	教師	58%	32%	26%
⑦	実習期間	63%	13%	50%
⑧	就職	68%	47%	21%
⑨	食事	37%	16%	21%
⑩	その他	61%	22%	39%

4. 今後の課題

本研究から、実習での不安の実態と傾向、さらに実習前後での不安度とその変容の実態が明らかになった。不安度の変容としては、実習前に不安を抱いている項目が、おおむね実習後には軽減していた。軽減に至った経緯として、「幼児」や「教師」との直接的なかかわりが影響している内容が多くみられた。実習を通して不安が解消される実態が多くみとめられ、軽減しなかったケースもみられた。

今後は不安の実態を丁寧に探り、さらに個々の質的な検討も試み、不安解消をめざした保育現場との実質的な連携・協働方法の開発を推進したい。

参考文献

1）戸田浩暢「学生の教育実習に対する不安感の考察」広島女学院大学人間生活学部紀要創刊号，47-57, 2014

2）前田美智代，三井圭子，黒崎令子「本学学生の保育実習・幼稚園教育実習における学びと課題：実習事前指導・実習・実習事後指導を通して」兵庫大学短期大学部研究集録　第 49 号，29-48, 2015

3）大條あこ「幼稚園教育実習における指導と学生の学び－開始から 6 年目を迎えて－」桜美林論考．心理・教育学研究　第 7 号，45-57, 2016

4）佐藤慶子，阿部敬信「幼稚園教育実習で学生が感じる困難に関する研究－幼稚園教育実習後及び事前の自己評価アンケートの分析から－」別府大学短期大学部紀要　第 35 号，17-26, 2016

5）田中浩二，馬場康宏「幼稚園・保育実習に対する短期大学生の不安感：不安感構成要因の学年による差異の検討」東京成徳短期大学紀要　第 49 号，49-55, 2016

6）馬場康宏，田中浩二「学生の幼稚園・保育所実習に対する不安および期待」東京成徳短期大学紀要　第 49 号，77-88, 2016

7）中山美佐「幼稚園教育実習の意義と目的についての考察：実習生の保育者観と不安の変化についての調査から」樟蔭教職研究　第 1 号，55-62, 2016

8）佐野友恵，廣橋容子「はじめての実習に対する不安感と実際（1）：不安要素の特定を中心に」国際研究論叢大阪国際大学紀要　第 24 巻 2 号，157-170, 2011

9）大平泰子，開　仁志「幼稚園教育実習生への指導のあり方に関する一考察～実習生の不安や悩みを中心に～」富山短期大学紀要　第 44 号，73-79, 2009

10）杉山喜美恵「教育実習事前指導のあり方について：2．教育実習に対する学生の不安要因」東海女子短期大学紀要　第 28 号，167-177, 2002

11）篠原一彦「教育実習生の不安に関する一考察」佐賀大学教育実践研究　第 31 号，225-235, 2014

12）戸田浩暢「小学校教育実習における生徒指導に係る不安感の変化」広島女学院大学人間生活学部紀要　第 2 号，59-70, 2015

資料 1

教育実習の指導（幼稚園）：5月24日

1. 実習がいよいよ始まります。今の心境として、不安や緊張あるいは期待が入り混じっていると思います。
不安については、あえて何が不安かを整理し、できるだけ具体的に確認（自覚）しておくと良いでしょう。
そうすることによって、かえって冷静にかつ客観的に実習にのぞむことができます。
以下の欄に、どんな些細なことでもよいので、不安の中身を書き出してみましょう。そして、その度合い（以下、不安度とよぶ）をパーセンテージ（0～100%）で表してみましょう。

	不安の内容	不安度（%）
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		

資料 2

教育実習（幼稚園）の指導：6月28日

1. 実習が終わりました。不安や緊張があったと思います。実習前にあった不安がどのように変容したのか整理し、出来るだけ具体的に確認（自覚）しておくと良いでしょう。
そうすることによって、冷静にかつ客観的に実習を振り返ることができます。
以下の欄に、実習前にあった不安がどのような経緯で変容したのか、書き出してみましょう。そして、その度合い（以下、不安度とよぶ）をパーセンテージ（0～100%）で表してみましょう。

	不安の内容に対して、実習中にどのような経緯があったか。	不安度（%）
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		